

令和元年度 第1回函南町立図書館協議会 議事録

- 1 日時 令和元年7月3日(水) 午後3時～午後4時30分
- 2 会場 函南町立図書館 2階 研修室
- 3 出席者 委員 齋藤 修 学校教育関係者
石田 和久 学識経験者
富永 和彦 学識経験者
榎本 政夫 社会教育関係者
稲葉 優子 家庭教育活動者
杉山 恵子 学識経験者
井上 明子 家庭教育活動者
教育長 山邊 義彦
事務局 渡辺 正樹 生涯学習課長
牧野 満枝 函南町立図書館館長
(生涯学習課課長補佐)
渡辺 孝治 生涯学習課主査
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0人
- 6 内容
- (1) 開会
- (2) あいさつ 山邊義彦教育長
- (3) 委嘱状交付 山邊義彦教育長
正副会長選出 会長 石田 和久、副会長 稲葉 優子
会長あいさつ 以下、会長が進行
- (4) 函南町立図書館運営の基本方針及び図書館協議会の役割について説明
館長
- (5) 報告事項
平成30年度事業報告 下記①～④について会議資料により報告 館長
- ① 「第三次函南町子どもの読書活動推進計画」について
- ② 「平成31年度子どもの読書活動優秀実践図書館 文部科学大臣表彰」
受賞・発表報告
- ③ かなみ知恵の和館入館者100万人達成記念式典開催について
- ④ 平成30年度事業報告
- ・平成30年度図書館利用状況について
 - ・平成30年度末蔵書数について
 - ・平成30年度実施事業について

各委員から出されたご意見等

(委員)

平成 26 年にこの図書館ができたばかりの頃、この図書館を社会教育委員が見学し、すばらしいと言っていた。最近開催された社会教育委員会では、見えない部分、学校との連携という部分、多くの町民ボランティアがかかわっているということを私から話した。

丹那小と桑村小への出張貸出、幼・小・中・高との連携ということもやっている。

ここに来れば子育て支援関係の施設も見てもらえるということもあり、幼稚園の親子だけでなく、保育園の親子に来てもらうことを推し進めてきた。

表面に現れていない部分、学校への図書の貸出しとか、大型紙芝居、大型絵本を使っただけの読み聞かせであるとか、社会教育委員は、5年前は図書館の表面的なことですばらしいと言っていたが、今回は、目に見えない部分、深いところでよくやってくれていると言っていた。表に見えない図書館の活動にも重要なところがあると感じている。

(議長)

(今の話の中には)この協議会で提言して実施されたという話もありました。

(6) 協議事項

ア 令和元年度事業計画について

・年間事業計画について

年間事業計画（案）について館長から説明

各委員から出されたご意見等

(議長)

事務局から説明がありました。基本的には継続実施の事業を主体にしながら、新しい要素を加えて方向性を見出していこうということをやっているようです。

(委員) 委員文芸作品（エッセイ、短歌、俳句、川柳）の冊子について

今後の方向性はどうか。文化協会等と連携していかないといけないと思うが、伊豆の国市と同じくらいの文芸誌ができないかなと思う。

函南は文芸関係が弱い。もっと幅広く文芸関係のサークルが育ってもらいたい。教育委員会と連携して文芸に力を入れていただきたい。

(館長)

職員の手作りで冊子を作っている。図書館の蔵書としても登録している。

(議長)

方向性はそういうことで、ただ予算のかかることなので、行政の方でも考えていただきたい。

(委員)

テーマがあるのもいいが、テーマがないのもいいのではないか。

(館長)

段々増えていって将来的にはある程度の冊子という形になればと思っている。

(議長)

図書館でやるとテーマを持ってということになるのだと思う。

(委員)

幼稚園の図書館見学は3年目になりますが、1年目は親子で半強制でもないが、みなさんに出席をお願いした。2年目からは希望者ということにした。行ってみたいという親も多くいて無理なく参加していただいている。いいところは、子ども向けのお話や、母親向けの話もしていただけることです。又本を何冊も借りられるので子どもたちも喜んでいる。幼稚園に返せばいいということで親も助かると言っている。2年目も3年目もほとんどのお母さんが参加してくださっている。

保護者を変えるのは難しいが、子どもが親に行きたいというと親も動くというのが大きいことではないか。引き続きお願いしたい。

(議長)

目指した方向に進んでいるのではないか。

(委員)

図書館見学の感想として、園児は幼稚園の友達と一緒に行けたということで喜んでいて。自分のカードで借りられるというのが子どもは楽しいようだ。読み聞かせのときもしっかり聞けていてよかった。

(議長)

いい方向に進んでいるのではないか。

(委員)

(図書館見学を) 幼時からやってもらっているので、親御さんに関心を持って貰うということでもいいのではないか。

表彰の話等、今日のような館長の話を知りたい人もいるはず。このようなプレゼンを何回もやってほしいと思う。多彩な活動をしているので、うまくみんなに広められればいいと思う。

小学校では来年から新しい指導要領となる。大学入試も来年から変わる。知識、技能から、思考力、判断力、応用力を求める活用型になっている。小学校の学力学習状況調査の問題と大学入試の問題が同じ形式。

図書館はどちらかという知識の提供の場であると思うが、学校現場では例えて言えばジグソーパズル型からレゴブロック型に、活用の学びになってきている。

図書館も本を町民に提供してお互いが活用しあうような場になり得ると面

白いのではないか。

図書館は多文化共生の場。間違いなく来年から保護者は英語に興味が行く。イングリッシュコーナーのようなものを設ける、イングリッシュウィークを実施する等、学校の立場からだが、多文化共生を基盤に据えた何かが考えられるのではないか。

(議長)

英語は課題です。

(館長)

英語の読み物や絵本もかなり蔵書があるが、紹介が足りないかもしれない。

図書館もいろいろなことをやっているが、知られていない。今回の全国受賞で知ってもらう機会を与えてもらったと思っている。その様子はインターネットで1年間配信されているので、画像をみなさんに見てもらってもできる。

(議長)

この会議でよい資料が提供されている。文科省の表彰のことを誰も知らない。この図書館の活動を映像で紹介するシステムを考えたらどうか。行事の予告であるとか、行事の内容であるとか、映像を使って知らせることを検討したらどうか。

イ その他図書館事業全般について

(委員)

低学年向けと高学年向けの図書のリストがありますか。

(館長)

図書館で作成したブックリストをカウンターで提供しています。

(委員)

図書館は定年退職後のような人（特に男性）の居場所として良い機能をしている。地区等の集まりに出ることが苦手な人もいる。このようなことに視点を向けると、余裕部屋があればということもあるが、それを活用することで、一人であることが居心地のよい人にとっては違った存在価値があるのではないかと感じている。

(会長)

文芸関係のことについては長期的なビジョンがなければいけないと感じています。

予算との関係もあるが、図書館の活動を周知する方法を考えていただきたい。そうすれば、幼稚園、保育園の保護者も図書館の活動を理解することができる。

(7) 閉会